



社会福祉法人 薄光会 広報紙



小柴事務局長撮影 こでまり

各施設ホームページには、法人ホームページからアクセスしてください。

<http://www.k3.dion.ne.jp/~hakukou/>

各施設のホームページにメールボックスがあります。ご意見、ご感想をお寄せください。

平成18年5月20日

社会福祉法人 薄光会 広報委員会発行

本部、豊岡光生園：〒299-1742 千葉県富津市豊岡 3535-1

三 芳 光 陽 園：〒294-0825 千葉県南房総市上堀 280

鴨川ひかり学園：〒299-2854 千葉県鴨川市代 1297

湊ひかり学園：〒299-1607 千葉県富津市湊 934-18

TEL 0439-68-1711

0470-36-3211

04-7099-3311

0439-70-6551(デイ)

0439-70-6552(通所)

### 「泥縄式障害者自立支援法による混乱」

#### の回避を！

障害者自立支援法が施行されます。

趣旨は、「障害者を一般社会から孤立して生活させる仕組みや制度を改善し、欧米の様に、障害の在る者も無い者も、差別のない社会を作り、そこでの自立生活を支援すること」だそうです。

だが、障害の程度によっては手厚い庇護の下で無いと生きて行けない者も大勢居ります。そこで、市町村の判定員が公平に判定し、其の結果によって、脱施設を促進させようと言つのです。其の為、俄か作りの市町村判定員による障害程度の判定が実施されます。其の結果、六、五、四の障害程度に判定されたものは主として施設入所支援可。三、二、一の判定の者は施設を出て行かなければならなくなりました。当園では二〇数名の仲間が施設を離れなければならないでしょう。

私達は、正に自分たちの老後である現在を見据え、資金を出し合い、支え合い、行政その他の支援指導を受けながら、法人を立ち上げ、入所、特養、通所施設等々を作り続けて参りました。同時に、同じ思いで悩む親子があればお役に立ちたいと、共に手を携えて地域福祉にも協力して参りました。然し、親達の平均年齢は七〇才を超え、黄泉の国へと旅立った者も、十指に余ります。残された者も殆どが年金生活となり、自助努力がこれから報われようと言つときになって、新法が国会を通過したのでした。

新法の下では、障害判定が三以下の者は、施設に残ることはできません。判定三の知的障害者の中には、身体は頑強であっても、言語によるコミュニケーションすらできず、一時も目を話すことの出来ない、自立すること等とても考えられない者が大勢含まれて居ります。だからこそ、私達は人生の大半を賭け、施設作りをし、入所させたのです。

自分の身の回りの事さえ満足に出来ない年若い親達が、重い障害を負った我が子を今更、自宅へ連れ戻り、或いは家を借りて世話をする事など不可能です。此れでは親子心中するしかありません。行政の指導の下、三〇数年もの長きに亘り、人生の大半を賭け着々と準備し築きあげて来た親達の努力は自立支援法施行により、殆んど瓦解してしまいました。

欧米では半世紀以上に亘り社会資本の充実や人材の育成を図り、十分に準備し徐々に実施したノーマライゼーションを、何故この国では何の計画も準備もなしに、今、急に始めなければならぬのでしょうか？ 障害者を自立させるところか混乱の渦の中へ引きずり込んでしまいました。政治の貧困、行政の墜落の後始末である財政再建のスケープゴートに一番の弱者で、ものも言えない障害者を選ぶとは、

なんたる 厚顔無恥 ！

なんたる 非情 ！

なんたる 無能 ！

と憤慨して居る親達も大勢居ります。

斯様な環境下、法人設立の趣旨通り、此所で支援継続を希望する者を、支え続けて行くには、街の中にケアホーム或いはグループホームを有する新たな事業を展開しなければなりません。

とは云いまして、親達の大半は既に年金生活者で、介護保険の支援を受けている者も少なくありません。寄付金等特殊な収入源も閉ざされて久しく、此の俛では、障害者自立支援法の趣旨に反して、ホームレスや行き倒れの障害者が街に溢れてしまいます。途方に暮れるばかりです。とても死に切れません。皆で力を出し合い何とかグループホームを建設し、目前の障害をクリアするしか方法は無いのでしょうか？

理事長 山崎 幸男



<http://yuucyan.blog.ocn.ne.jp/little-light/>





鴨川ひかり学園

## ひかり通信

『春つらら』

” ♪さくらさくら、さくら弥生のそらは・・・ ” 三月半ば過ぎから陽射しぼかぼか、春も盛りの気分。「もしかすると、三月中に花見を変更するようになるかもしれないね。」焦る職員を尻目に学園の庭の桜は、昨日は花が七つ咲いていたのに今日は十九も咲いている・・・。開花宣言が出てからはあれよあれよと咲き出して・・・。予感は大当たり、ついに歌のとおり弥生三月末の花見に出かけることになりました。

学園から約三キロ、嶺岡山系の一角にある眺望豊かな一戦場公園に、心地よい海風にそよぐ満開の桜の木々が利用者たちを待っていました。まず学園屈指の健脚八名が「がんばって！」と声援されながら先陣を切って目的地へ向かいました。続いて第二陣。このグループは、バスに乗って途中で第一陣を追い抜き、目的地への残りの一キロを歩こうというものです。暫らくしてバスを降り歩き始めた第二陣の面々、延々と続く登り道に次第にあごが出て、ペースも落ちてしおれていきました。行き交う人々に元気に挨拶していた「こんにちはー」の声もか細くなった頃、見事な桜が見えてきました。皆の顔に元気が戻りました。その時、何人かのペースが上がる職員も追い越して第二陣が

一気に進みだしました。後ろにも声がして目をやると、三キロの山道を踏破した第一陣が追い上げてきました。「えーっ早ー」。感心するや、「いやあ途中でけっこう道草したんだけどねえ、追いついちやっただねえ。」という余裕の言葉。バスで到着していた第三陣と皆が合流、春風の中、美味しい水をごくごく飲みました。



一戦場公園の桜



魚見塚展望台からの眺望1（鴨川松島）



魚見塚展望台からの眺望2（前原海岸）

桜の花びらが舞う中で職員の余興”アンパンマン体操”が始まりました。傍らには託児所の子供達がかわいらしいお弁当を広げていました。

歩き疲れて空腹の皆は、お弁当に釘付け。託児所の子供たちは、ダンスに釘付け。一緒に踊りだす子供もいて、和やかな時を過ごしました。桜の花びらの舞う春のひと時。

さあ、私たちも美味しいお昼ご飯が待っています。

”春つらら、花もいけど団子もね・・・”

(石塚)

## 『アキバ系とオヤジ系』

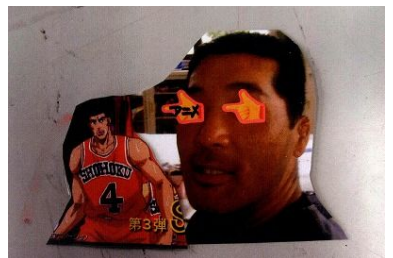
三月に養護学校を卒業し、当学園を利用している方が四名いらっしゃいます。

その中のーさんはとてもアニメ好きで、彼女の頭に詰め込まれているその知識たるや相当なものです。アニメの知識には、現在のものから私が子供の頃の作品まで網羅されています。マンガも好きで、あの職員は誰々に似ている、あの人は誰某ごと、毎日アニメ談義に花が咲いています。私は誰に似ているのかな?」の問いに、間発入れず「ゴリ!」思わずかけてしまいました。「ゴリとは、アニメ「スラムダンク」の登場人物で、ゴリラのようなキャプテンのことです。まあ、一応人間なのでよしとおきましょう。

そんなーさんの夢は、秋葉原のメイドカフェに行ってみたいとの事で、「だって、とても楽しそうじゃない。」と笑顔で一言。私といえば、その様な所に一度も足を踏み入れた事も無く、どの様に應えてよいものか分からず「メイドの土産はメイドインジャパン。」と切り返すと、ーさんは一瞬凍りついてしまいました。が、「今度一緒に行くからね。」と有難い救いの言葉をかけてくれました。本当に優しいのね。こんなオヤジに対して、もう誰も誘いの言葉などありゃしない・・・と嘆いてはいただけせん。

新しくひかり学園の仲間になった彼女達が、一日でも早くこの雰囲気慣れてもらえよう、日々一層の努力をおします頑張ります。でも、朝の開口一番に「おはよう、ゴリ!」、「おじさんはどうしてよいのやら・・・」。

(N川)



### 「鴨川からの花だより」

花の香りがいとおしく、

花の色が可憐だから、

ただ見ているだけでは、もったいなくて

・・・！！ 食べちゃいました！

### 《チュウリップのシヤム》

(材料花びら：適量)

砂糖：花びらの半量

塩・酢・レモン汁：少量

(作り方)

①塩・酢を少量入れた熱湯で花びらを湯がき、  
箆にあげて水でさらす。

②ひたひたの熱湯に入れて、花びらの半量の  
砂糖を加え煮詰める。

③仕上げにレモンを加える。

※そのまま食べても美味しいでしょうがシヤムにするより一層美味しく戴けますよ。



# 学園新聞

第100号

## 「ある施設長の孤独」

「上に立つものは孤独である」とよく言われる。私も施設長であるからには孤独に耐えなければならぬ。

湊ひかり学園が開園して三年目に入った。開園の年は慌ただしく過ぎ、二年目には児童デイサービス事業を立ち上げた。ところが、三年目に障害者自立支援法が施行され、以来息をつく間もないほどに次から次へと対応に追われているというのが今の実感である。職員たちも、じつくり腰を据えて利用者さんへの支援を深く考える余裕が持たない。

支援の方法や内容をめぐって悩んだり、利用者さんに振り回されているのであれば、これこそ、この仕事の真髄であるし、喜んで立ち向かえる自負もある。しかし、振り回される理由が、利用者さんが与り知らない制度の改正なのだから、腹立たしい。

けれども、制度改正や新法に背を向けては生きていけない。上手く乗り越えなければ、利用者さんも事業所も死活問題である。

新法による利用者の新たな自己負担（定率、一割）や食費負担を否応なく保護者に説明しなければならなくなる。保護者から、「あの施設長はお金の事ばかり言っている」と言われても仕方がないと自嘲している。どここの施設長でも大なり小なりこんな事を言われているに違いない。

「私のせいではないんです！」と言いたい。

施設長 岡田 和夫



## 「新しい仲間たち」

新年度を前にして、ひかり学園に新しく仲間が増えました。とても小さな仲間たち・・・それは五匹の金魚です。大きな水槽の中で気持ち良さそうに泳いでいます。利用者の皆さんが嬉しそうに覗き込むと、金魚も元氣いっぱいの泳ぎを披露。その度にみんな「おーっ」と歓声を上げ、大喜びです。ところで、金魚の方はというと・・・

・・・金魚の気持ち・・・

みんな、ぼくたち金魚を気に入ってくれてるみたい。時間があると水槽の前に座って顔を見せてくれたり、話しかけてくれたり、エサを入れてくれるよ！ それは嬉しいんだけど・・・

水槽をドンドン（カンガン）と叩いてくるのはどうなの？ この前はいきなり水槽に手が入ってきて、あわや、ぶつかるといったんだよ！ ビックリしちゃうからさあ、ホント、気をつけてよ！

金魚たちはかなりご立腹のようです。まあまあ金魚さん、ちょっと過激な愛情表現って事で許してくださいよ！

（富澤）



## 「祝・開園二周年！」

平成十八年四月一日、湊ひかり学園は開園二周年を迎えました。記念パーティーには成人デイサービス、通所の利用者が参加し、にぎやかなパーティーとなりました。

昨年四月、新たに児童デイサービスを開設し、また成人デイサービスの定員を増やした事もあり、日々、学園を利用していただく方々はこの二年間では、倍増しました。これからも多くの利用者の皆様が安心して明るく、元気に学園生活を送る事が出来るよう、サービスの向上に努めてまいります。



## 「デイサービス事業を考へる」

三芳光陽園のデイサービス事業は、平成六年より施設の併設事業として利用定員八名で始まり、平成十二年度からの介護保険制度下、四く五名のスタッフで事業を展開、発展させてきました。

昨年後期より利用定員を二十名に増員し、介護保険制度の見直しの今年度より、管理者、生活相談員、看護師、介護員、総勢七名の職員で事業を展開することとなりました。

今回の介護保険制度の見直しによる介護報酬の改定、特に施設入所の介護報酬の引き下げを見ると、今後、施設入所の収入に頼った事業展開は難しいものがあります。三芳光陽園としての事業展開を居宅サービス、中でもデイサービス事業の効率的な展開にシフトしていかざるを得ない状況です。

居宅サービスへのシフトといっても簡単ではありません。なにしろ、この事業者もこぞって参入して行くことが見込まれ、デイサービス事業などは狭い地域の中にくつつも事業者が事業を展開して行くのですから。

こういった状況は、見方を変えますと、介護保険制度が本来目指していた『利用者が事業所、サービスを『選ぶ』ということが可能となることでもありません。その中でいかに選ばれる事業所となるかが今後の課題でもあるのです。

利用定員を二十名に増員してから今日まで、

定員いっぱい利用という日はありませんが、何はともあれ、利用して下さる方々が、楽しく安心して利用していただけるような時間、場所を提供できるようにすることが一番であると思います。その延長線上に選ばれる事業所となる道があるのだと思います。

管理者 落合 勝寛



## 「三芳光陽園、陸の孤島と化す」

四月十二日、天気予報のとおり深夜から肩総半島に降り続いた雨。明け方には雨脚も弱まり、いつもと同じ出勤の準備を始めていたころだった。

急に携帯電話が鳴り、何かかと思いつつ出てみると、デイサービスの担当からで、

「平群川の洪水で橋が冠水してしまい迎えにいけない地域が出ていますので、連絡をとって、迎えに回れる地域だけデイサービスを行います」とのこと。所々、山が崩れたりのり、通行止めも数箇所あり、職員の通勤にも支障が出ているとの報告だった。

これは一大事と、急いで車を走らせる。雨はそれほど降っていないが、道路脇を流れる川は恐ろしい様相で、今にも橋を飲み込まんばかりに迫ってきている。脳裏を、ハリケーンで水没したアメリカの施設の映像がよぎる。

『園が陸の孤島となってしまったら・・・。』いつもは三分弱の通勤が、通行止めによる迂回、迂回の繰り返しで、一時間以上かかったが、何とか園にたどり着く。入所者に混乱は全くなく、職員も少ない人数で朝食の介助を何とか終えようとしていた。

本部に状況を報告し、周囲の状況を確認しに出てみることにした。雨は小降りになっており、事態が収束の方向に向っていることは予想できたが、館山方面から三芳へ入ってくる橋は冠水状態、富山方面は三芳との境の川より低い道路が冠水状態、つい五分前通れた園に入ってくる道は、田んぼからの水で通行止めとなっていた。それほど長い時間ではなかったが、三芳光陽園は『陸の孤島』と化していたのである。自然の恐ろしさを痛感するとともに、これくらいのことでは全く動揺しないお年寄りたちのたくましさに感心させられた春の一日だった。



施設長 神谷 亨



ちょっといっぷく  
~この笑顔が見たかった!~



\*個人情報保護法に基づき、写真掲載については本人、保護者の承諾を得ております。

### 【編集後記】

季節は、うらかな春から風馨る初夏へと移り変わり、花々や緑眩しい樹々の梢に心おませられますが、福祉の春はまだ遠いようです。

だからこそ、自然を感じ、心豊かに生きる事を諦めたりしません。

『きらめき第九号』は、爽やかな初夏をお届けします。

(法人広報委員会)

